

< 2023 「これからの教育と研究～大学生協教員調査」アンケート結果報告 >

岐阜大学 版 2023年 10月
岐阜大学消費生活協同組合

【 本調査実施の所感 】

今回の調査で、先生方からみた学生の学び方や課題、また先生方が授業や研究にあたって困っておられることが見えてきました。

大学生協へのご要望や期待も多くのお声をお寄せいただいています。

先生方のお困りごとへのサポートなど、ニーズに応じていくため、これまで行っている学生へのデバイス提案や ICT サポート、教科書販売、物品や書籍手配等に加え、今後、次のような取り組みを検討してまいります。

- ① 学生が自身の学びをより良くしていくために…不足しているスキルを身に着けるための講座や書籍提案等
- ② 先生方が授業をスムーズに進行するために…学生の ICT サポートに加え、先生方の ICT や授業準備・教材作成のサポート、教科書や電子教科書のニーズに応えるためのコンテンツ調達や利用提案
- ③ 先生方の研究時間の確保や効率化のために…時間不足や効率化に役立つ物品の提供にとどまらず活用例などのお役立ち情報の提供、大学生協への注文や連絡などの便利さの向上

以上

< 2023 「これからの教育と研究」～大学生協教員調査」アンケート結果報告 >

岐阜大学 版

アンケート期間：2023/6/12 ～ 7/31

■ アンケート結果の報告概要

- 1) 基本情報
- 2) コロナ禍以降の「授業」の変化
- 3) 学生の「学び」の変化
- 4) 「教科書」に対する意識
- 5) 研究活動や研究費の動向

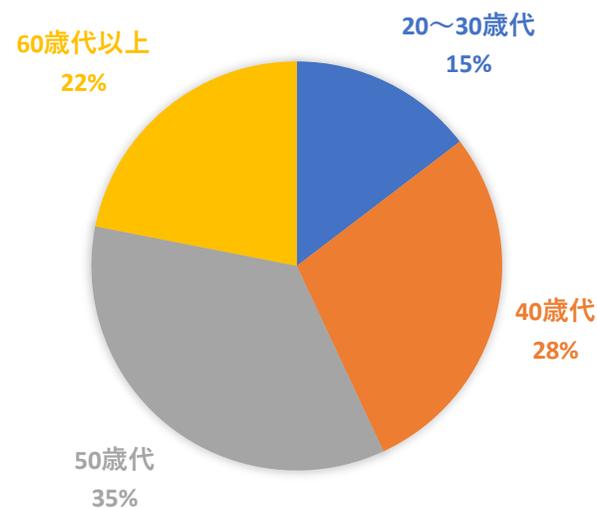
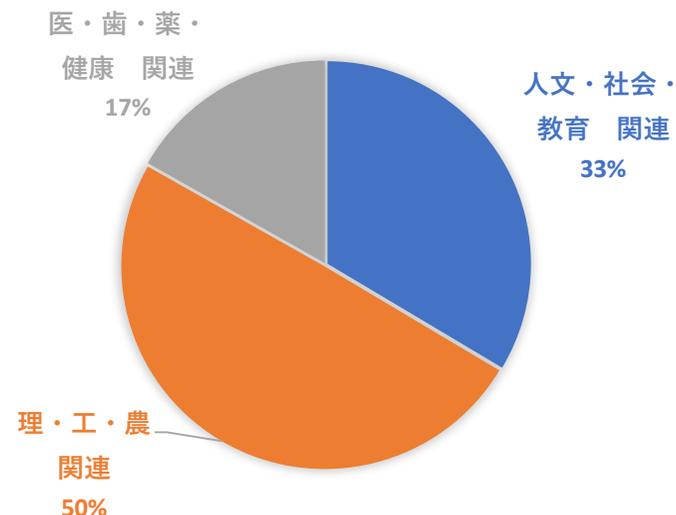
回答数(自大学)	137
回答数(全国)	2238

研究分野	人文・社会・教育 関連	理・工・農 関連	医・歯・薬・健康 関連
自大学	33.6%	49.6%	16.8%
全国	47.6%	39.1%	13.3%

先生の年齢	20～30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
自大学	14.6%	28.5%	35.0%	21.9%
全国	12.9%	29.5%	37.1%	20.6%

授業担当	授業を担当している	授業はない
自大学	95.6%	4.4%
全国	95.8%	4.2%

担当授業コマ数	最大値	最小値	平均値
自大学(回答数)	14	0	3.9
全国(回答数)	90	0	5.3



	医・歯・薬・健康 関連	人文・社会・教育 関連	理・工・農 関連	総計
平均 / 今学期ご担当されている授業のコマ数(1週間あたり)を教えてください	3.1	5.6	2.9	3.9

5.一週間あたりの行動時間の配分についてお聞きします。下記項目について大まかな時間配分をお聞かせください

6.一週間あたりの行動時間について、本来こうしたいという配分を選択してください

行動時間配分		0%	10%	20%	30%	40%	60%	80%
自大学	教育	0.0%	2.2%	20.4%	25.5%	33.6%	16.8%	1.5%
	研究	1.5%	15.3%	26.3%	24.1%	21.2%	8.0%	3.6%
	社会貢献	18.2%	48.9%	25.5%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	管理運営	8.0%	35.0%	28.5%	16.1%	8.8%	3.6%	0.0%
全国	教育	0.4%	3.1%	14.1%	24.9%	30.3%	20.9%	6.2%
	研究	3.0%	25.5%	26.3%	23.5%	15.3%	5.4%	1.1%
	社会貢献	20.2%	53.1%	18.1%	7.0%	1.4%	0.3%	0.0%
	管理運営	8.0%	30.7%	26.5%	16.9%	12.0%	4.7%	1.1%

【 調査概要 】

■ 現状の行動区分の4領域のバランスはおおよそ下記の数値

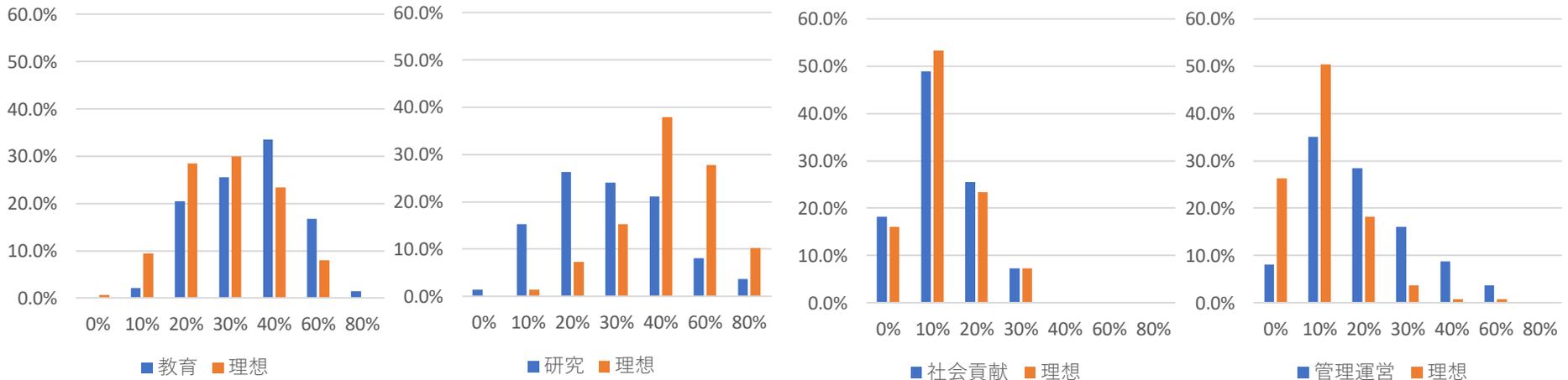
教育 40%
 研究 25%
 社会貢献 10%
 管理運営 15%

■ 理想としての配分は、下記の傾向にある

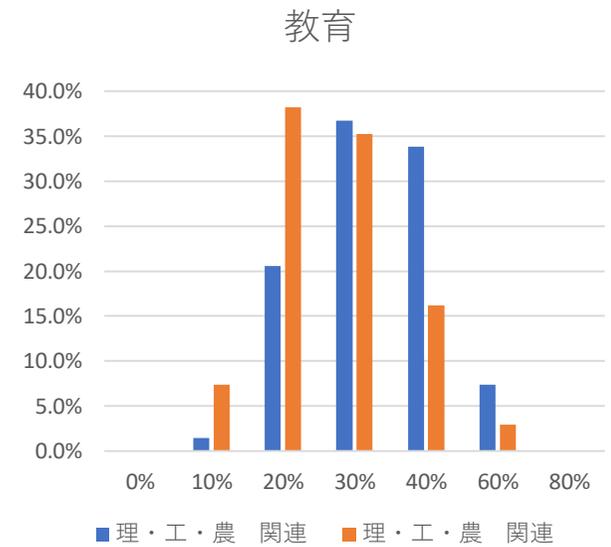
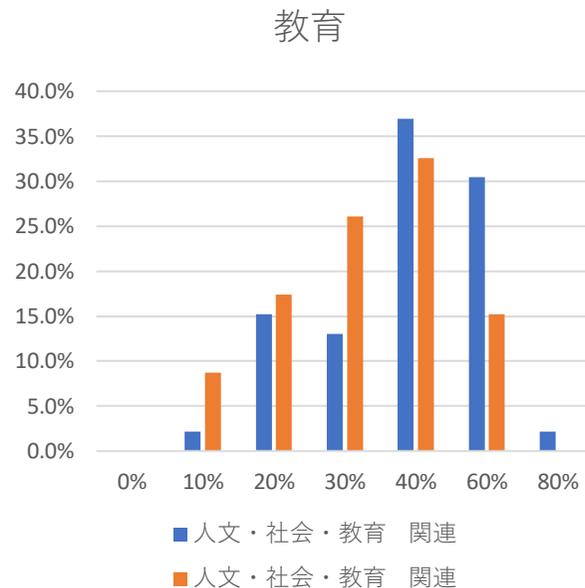
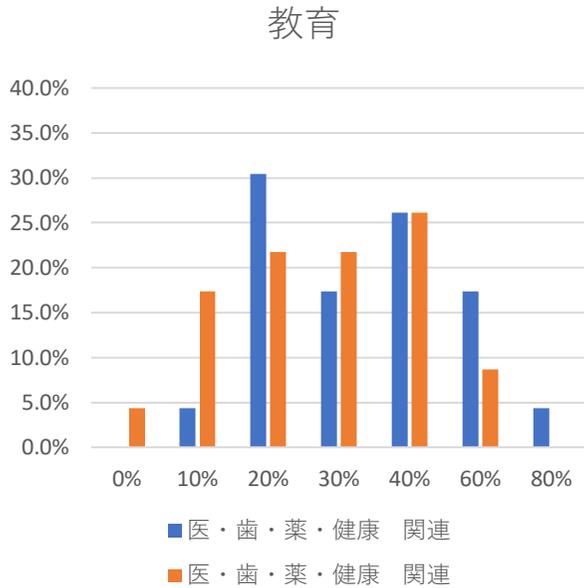
教育 少し減らしたい
 研究 大きく増やしたい
 社会貢献 現状維持
 管理運営 減らしたい

■ 研究分野別にみると傾向が異なる（別紙参照）

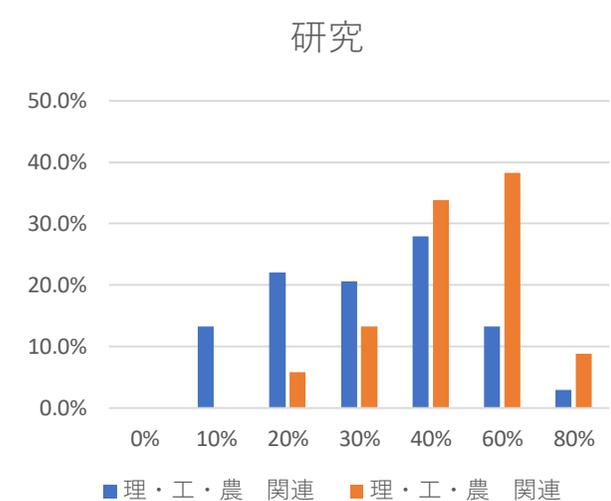
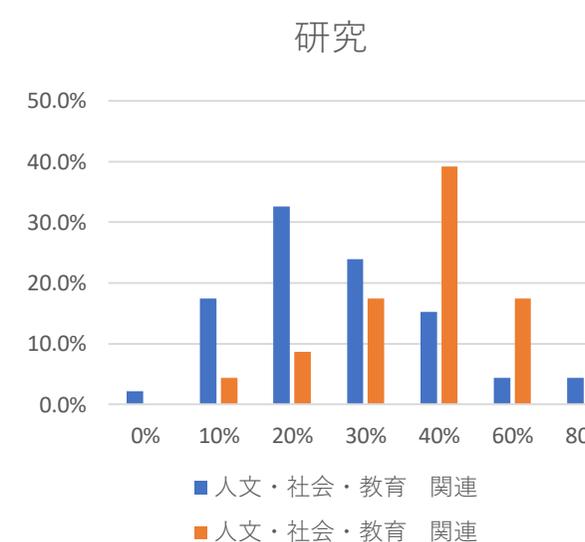
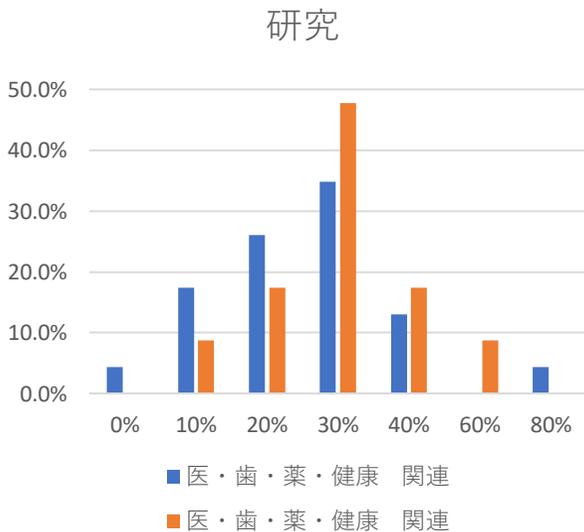
行動時間配分(理想)		0%	10%	20%	30%	40%	60%	80%
自大学	教育	0.7%	9.5%	28.5%	29.9%	23.4%	8.0%	0.0%
	研究	0.0%	1.5%	7.3%	15.3%	38.0%	27.7%	10.2%
	社会貢献	16.1%	53.3%	23.4%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	管理運営	26.3%	50.4%	18.2%	3.6%	0.7%	0.7%	0.0%
全国	教育	0.6%	5.8%	22.3%	33.9%	29.4%	6.8%	1.3%
	研究	0.5%	1.9%	6.6%	19.2%	40.8%	23.9%	7.0%
	社会貢献	11.9%	53.6%	25.4%	7.5%	1.4%	0.2%	0.0%
	管理運営	21.5%	55.6%	17.2%	4.1%	0.9%	0.4%	0.2%



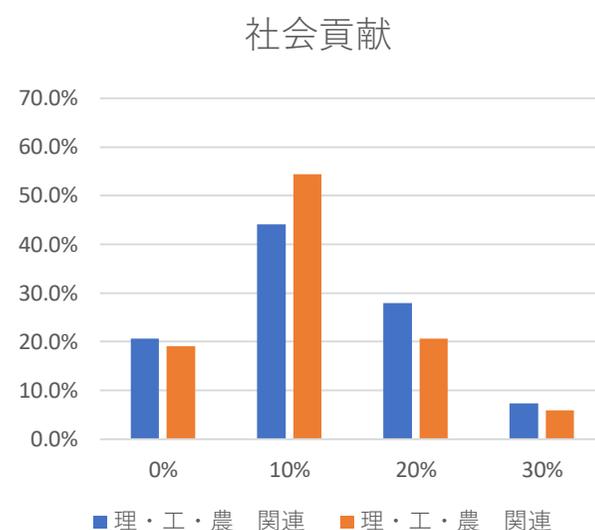
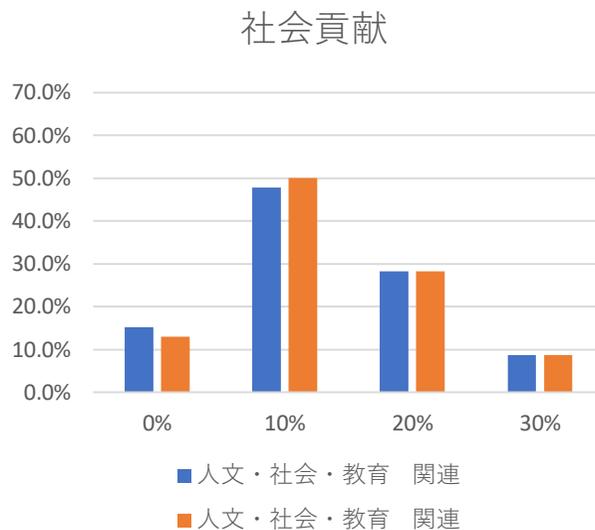
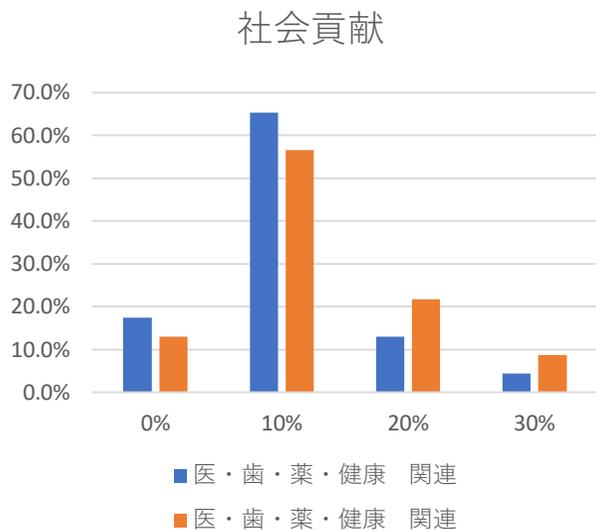
■ 比較すると、人文系、理工系の教員が、教育に時間をかけているが、比率を下げたい意向が強い。



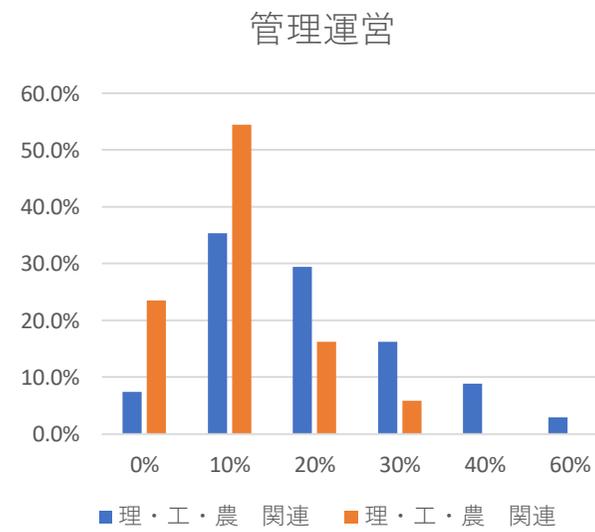
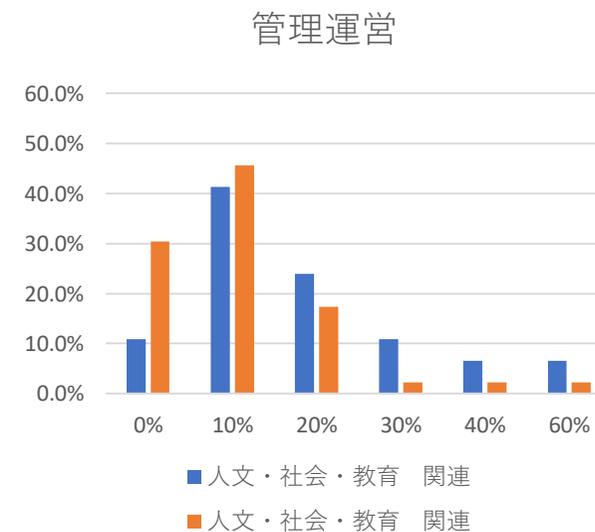
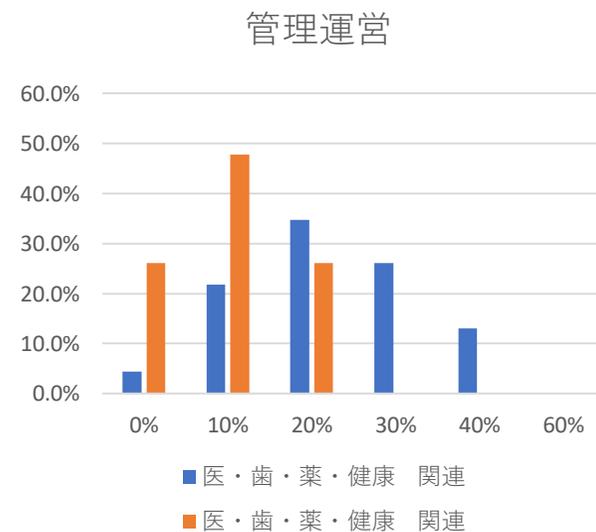
■ 比較すると、人文系、理工系の教員に、研究により多くの時間をかけたい傾向が強い。



■ 系列で多くの差はない。平均値が15%前後であることをどう評価するのか。活動内容の精査が必要。



■ 管理運営にかかる時間を短くしたい傾向は系列で差はない。医学系で、管理運営に時間がかかっている傾向がある。



	0%	10%	20%	30%	40%	60%	80%
教育	0.0%	2.2%	20.4%	25.5%	33.6%	16.8%	1.5%
理想	0.7%	9.5%	28.5%	29.9%	23.4%	8.0%	0.0%
研究	1.5%	15.3%	26.3%	24.1%	21.2%	8.0%	3.6%
理想	0.0%	1.5%	7.3%	15.3%	38.0%	27.7%	10.2%
社会貢献	18.2%	48.9%	25.5%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%
理想	16.1%	53.3%	23.4%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%
管理運営	8.0%	35.0%	28.5%	16.1%	8.8%	3.6%	0.0%
理想	26.3%	50.4%	18.2%	3.6%	0.7%	0.7%	0.0%

教育 現状

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	1	1	1	3
10%	7	7	14	28
20%	4	6	25	35
30%	6	17	23	46
40%	4	14	5	23
60%	1	1		2
80%				
総計	23	46	68	137

教育 現状

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%				
10%	4.3%	2.2%	1.5%	2.2%
20%	30.4%	15.2%	20.6%	20.4%
30%	17.4%	13.0%	36.8%	25.5%
40%	26.1%	37.0%	33.8%	33.6%
60%	17.4%	30.4%	7.4%	16.8%
80%	4.3%	2.2%		1.5%
総計	23	46	68	137

教育 理想

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	1			1
10%	4	4	5	13
20%	5	8	26	39
30%	5	12	24	41
40%	6	15	11	32
60%	2	7	2	11
80%				
総計	23	46	68	137

教育 理想

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	4.3%			0.7%
10%	17.4%	8.7%	7.4%	9.5%
20%	21.7%	17.4%	38.2%	28.5%
30%	21.7%	26.1%	35.3%	29.9%
40%	26.1%	32.6%	16.2%	23.4%
60%	8.7%	15.2%	2.9%	8.0%
80%				
総計	23	46	68	137

研究 現状

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	1	1		2
10%	4	8	9	21
20%	6	15	15	36
30%	8	11	14	33
40%	3	7	19	29
60%		2	9	11
80%	1	2	2	5
総計	23	46	68	137

研究 現状

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	4.3%	2.2%	0.0%	1.5%
10%	17.4%	17.4%	13.2%	15.3%
20%	26.1%	32.6%	22.1%	26.3%
30%	34.8%	23.9%	20.6%	24.1%
40%	13.0%	15.2%	27.9%	21.2%
60%		4.3%	13.2%	8.0%
80%	4.3%	4.3%	2.9%	3.6%
総計	23	46	68	137

研究 理想

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%				
10%		2		2
20%	2	4	4	10
30%	4	8	9	21
40%	11	18	23	52
60%	4	8	26	38
80%	2	6	6	14
総計	23	46	68	137

研究 理想

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%				
10%		4.3%		1.5%
20%	8.7%	8.7%	5.9%	7.3%
30%	17.4%	17.4%	13.2%	15.3%
40%	47.8%	39.1%	33.8%	38.0%
60%	17.4%	17.4%	38.2%	27.7%
80%	8.7%	13.0%	8.8%	10.2%
総計	23	46	68	137

社会貢献 現状

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	4	7	14	25
10%	15	22	30	67
20%	3	13	19	35
30%	1	4	5	10
総計	23	46	68	137

社会貢献 現状

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	17.4%	15.2%	20.6%	18.2%
10%	65.2%	47.8%	44.1%	48.9%
20%	13.0%	28.3%	27.9%	25.5%
30%	4.3%	8.7%	7.4%	7.3%
総計	23	46	68	137

社会貢献 理想

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	3	6	13	22
10%	13	23	37	73
20%	5	13	14	32
30%	2	4	4	10
総計	23	46	68	137

社会貢献 理想

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	13.0%	13.0%	19.1%	16.1%
10%	56.5%	50.0%	54.4%	53.3%
20%	21.7%	28.3%	20.6%	23.4%
30%	8.7%	8.7%	5.9%	7.3%
総計	23	46	68	137

管理運営 現状

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	1	5	5	11
10%	5	19	24	48
20%	8	11	20	39
30%	6	5	11	22
40%	3	3	6	12
60%		3	2	5
総計	23	46	68	137

管理運営 現状

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	4.3%	10.9%	7.4%	8.0%
10%	21.7%	41.3%	35.3%	35.0%
20%	34.8%	23.9%	29.4%	28.5%
30%	26.1%	10.9%	16.2%	16.1%
40%	13.0%	6.5%	8.8%	8.8%
60%		6.5%	2.9%	3.6%
総計	23	46	68	137

管理運営 理想

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	6	14	16	36
10%	11	21	37	69
20%	6	8	11	25
30%		1	4	5
40%		1		1
60%		1		1
総計	23	46	68	137

管理運営 理想

個数 / ID 列ラベル	行ラベル 医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
0%	26.1%	30.4%	23.5%	26.3%
10%	47.8%	45.7%	54.4%	50.4%
20%	26.1%	17.4%	16.2%	18.2%
30%		2.2%	5.9%	3.6%
40%		2.2%		0.7%
60%		2.2%		0.7%
総計	23	46	68	137

授業の進め方や評価方法の変化1	予習/復習課題を増やした	出席の取り方が変わった	新たに教科書を指定した	教科書を紙から電子教科書に変更した	教科書の指定をやめた	資料や板書の共有方法をデジタル化した	授業内での動画の活用を増やした	TA/補助をお願いした	テストをオンライン化した	レポート等の提出をオンライン化
自大学	13.0%	16.8%	1.5%	0.0%	2.3%	38.9%	22.9%	1.5%	12.2%	38.9%
全国	20.7%	32.7%	3.2%	3.0%	2.1%	48.2%	27.5%	2.6%	23.3%	54.6%

授業の進め方や評価方法の変化2	レポート課題増	レポート課題減	テストを用意した回数増	テストを廃止した	新たにPCや周辺機器を購入した	独自の休憩時間を用意	特に変化はない
自大学	9.9%	0.8%	3.1%	0.0%	15.3%	0.8%	30.5%
全国	15.3%	1.8%	6.5%	3.6%	24.3%	3.2%	14.7%

行ラベル	23 46 68			137
	医・歯・薬	人文・社会	理・工・農	
(空白)	4.3%		7.4%	4.4%
特に変化はない	34.8%	17.4%	35.3%	29.2%
レポート等の提出をオンライン化した(授業後の感想文なども含む/メール送信等含む)	13.0%	56.5%	32.4%	37.2%
資料や板書の共有方法をデジタル化した	39.1%	32.6%	39.7%	37.2%
授業内での動画の活用を増やした	26.1%	28.3%	16.2%	21.9%
出席の取り方が変わった	21.7%	17.4%	13.2%	16.1%
新たにPCや周辺機器を購入した(具体的な製品名があればその他欄にご回答ください)	13.0%	26.1%	7.4%	14.6%
予習もしくは復習の課題を増やした	8.7%	10.9%	14.7%	12.4%
テストをオンライン化した(小テストなども含む)	4.3%	10.9%	14.7%	11.7%
レポート課題を増加させた		10.9%	11.8%	9.5%
テストを用意した、回数を増加させた		4.3%	2.9%	2.9%
教科書の指定をやめた		2.2%	2.9%	2.2%
授業のためにTAを用意した・補助をお願いした	4.3%		1.5%	1.5%
新たに教科書を指定した			2.9%	1.5%
2020年度前期(4-9月)は課題やテストを完全にオンライン化したが、それ以降は徐々に対面形式に戻し、特にテストは必ず対面で行うことにした。			2.2%	0.7%
PC、ヘッドセット			2.2%	0.7%
surface			1.5%	0.7%
Webカメラ、マイク等			1.5%	0.7%
タブレット、スマホ			1.5%	0.7%
レポート課題を減少させた		2.2%		0.7%
教材提示装置		2.2%		0.7%
高性能なルーター、ヘッドセット		2.2%		0.7%
今はコロナ前に戻した		2.2%		0.7%
独自の休憩時間を用意するようにした	4.3%			0.7%
総計	62	152	204	418

【調査概要】

- 変化があった約7割の先生で、その変化内容を順位別に並べたのが左の表。全国平均に対して特に高い項目はなく、コロナ渦以前から、LSM が定着していたことが影響していると思われる。
- とはいえ、コロナ渦で下記上位の変化が、学生の「デジタルを活用した学び」に影響を及ぼしていると推測さえる。
 - レポート等の提出をオンライン化 38.9
 - ※ 人文系において 56.5 と高い
 - 資料や板書の共有方法をデジタル化 38.9
 - 授業内での動画の活用を増やした 22.9
- 別途おこなった学生の ICT 調査結果にも反映している
- 新たにPCや周辺機器を購入された率は、人文系が 26.1%と高い
- レポート課題を増加などの傾向は、理工系で高い傾向がみられる

授業準備の変化	授業内容準備時間が長くなった	授業直前の準備時間が長くなった	機材設置準備の時間が長くなった	教室持込みの自分の機材・道具が増えた	スタッフとの打ち合わせ時間が長くなった	特に変化はない
自大学	42.0%	17.6%	14.5%	13.7%	1.5%	44.3%
全国	45.1%	25.6%	22.6%	21.6%	2.6%	34.5%

行ラベル	23 医・歯・薬・人文・社会	46 理・工・農	63 総計	137 総計
(空白)	4.3%		7.9%	4.4%
特に変化はない	52.2%	30.4%	50.8%	42.3%
授業(内容)を準備する時間が長くなった	34.8%	50.0%	38.1%	40.1%
授業直前の準備時間が長くなった	17.4%	13.0%	20.6%	16.8%
教室内の機材の設置準備の時間が長くなった	17.4%	17.4%	11.1%	13.9%
教室に持ち込む自分の機材や道具が増えた(具体的なものがあればその他欄にご回答ください)	17.4%	19.6%	7.9%	13.1%
スタッフ(オンライン配信担当等)との打ち合わせ時間が長くなった	4.3%	2.2%		1.5%
COVID-19の最中ではオンデマンド用の動画作成に時間を費やした		2.2%		0.7%
学生からの問い合わせ対応が増えた		2.2%		0.7%
感染症罹患者の代替措置対応が追加業務として加わった		2.2%		0.7%
授業の準備時間が短くなった。		2.2%		0.7%
授業後の時間が増えた		2.2%		0.7%
準備の手間が減って、時間が短くなった			1.6%	0.7%
準備時間の短縮		2.2%		0.7%
短くなった。		2.2%		0.7%
DVDプレイヤー			1.6%	0.7%
PC			1.6%	0.7%
surface			1.6%	0.7%
ノートPC			1.6%	0.7%
総計	56	114	154	324

【調査概要】

- 授業準備にともなう変化を、その変化内容を順位別に並べたのが左の表。全国平均に対して特に高い項目はなく、コロナ渦以前から、LSMが定着していたことが影響していると思われる。理工系にその傾向が強い。

- それでも、全体で42.0%の教員が授業(内容)を準備する時間が長くなったとしている。また、下記の3項目も15%を超えている。
 - 授業直前の準備時間が長く 17.6
 - 教室内の機材の設置準備 14.5
 - 教室に持ち込む機器が増えた 13.7
 教室内の機材設置、持ち込む機器の増加は医学系、人文系で多い傾向にある。授業をおこなう教室備え付けの設備の違いがあるのかもしれない。

LMSの利用状況

LMS利用	よく使う	時々使う	使わない
自大学	44.3%	19.1%	36.6%
全国	48.7%	15.7%	35.5%

行ラベル	医・歯・薬・人文・社会理・工・農	総計
よく使う	21.7%	42.3%
時々使う	17.4%	18.2%
使わない	56.5%	35.0%
(空白)	4.3%	4.4%
総計	23	137

行ラベル	医・歯・薬	全体比	人文・社会	全体比	理・工・農	全体比	総計	全体比
よく使う	21.7%		45.7%		47.1%		42.3%	
よく使っていた	20.0%	4.3%	33.3%	15.2%	43.8%	20.6%	37.9%	16.1%
ある程度使っていた	40.0%	8.7%	47.6%	21.7%	43.8%	20.6%	44.8%	19.0%
使っていなかった	40.0%	8.7%	14.3%	6.5%	12.5%	5.9%	15.5%	6.6%
(空白)			4.8%	2.2%		0.0%	1.7%	0.7%
時々使う	17.4%		21.7%		16.2%		18.2%	
ある程度使っていた	50.0%	8.7%	60.0%	13.0%	72.7%	11.8%	64.0%	11.7%
使っていなかった	50.0%	8.7%	40.0%	8.7%	27.3%	4.4%	36.0%	6.6%
使わない	56.5%		32.6%		29.4%		35.0%	
(空白)	100%	56.5%	100%	32.6%	100%	29.4%	100%	35.0%
(空白)	4.3%				7.4%		4.4%	
(空白)	1	4.3%			5	7.4%	6	4.4%
総計	23		46		68		137	

行ラベル	医・歯・薬	人文・社会	理・工・農	総計
よく使う	5	21	32	58
よく使っていた	1	7	14	22
ある程度使っていた	2	10	14	26
使っていなかった	2	3	4	9
(空白)		1		1
時々使う	4	10	11	25
ある程度使っていた	2	6	8	16
使っていなかった	2	4	3	9
使わない	13	15	20	48
(空白)	13	15	20	48
(空白)	1	5	6	6
(空白)	1	5	6	6
総計	23	46	68	137

コロナ禍前のLMSの利用状況

コロナ前LMS利用	よく使っていた	ある程度使っていた	使っていなかった
自大学	26.5%	50.6%	21.7%
全国	22.5%	42.8%	33.4%

行ラベル	医・歯・薬	人文・社会	理・工・農	総計
よく使っていた	4.3%	15.2%	20.6%	16.1%
ある程度使っていた	17.4%	34.8%	32.4%	30.7%
使っていなかった	17.4%	15.2%	10.3%	13.1%
(空白)	60.9%	34.8%	36.8%	40.1%
総計	23	46	68	137

【調査概要】

- 岐阜大学でのLMS利用は、コロナ禍前から始まっており、コロナ禍をへて、6割を超える利用状況になっている。利用していない35%の動向が気になるところ。
- ※ 医学系の未使用率が56.5%と低いのも気になるところ

- コロナ禍を前後の変化は、下記のとおり。(未回答分も含む%比較)
 - ある程度使っていた30.7%の層で、よく使うようになった19.0%
 - 使っていなかった13.1%の層で、よく使うようになった6.6%
 - 時々使う6.6%
 - 使っていなかった+空白13.1+40.1%=53.2%層の35%は、コロナ禍後も使っていないと数値となる。
- 2023年度10月からは、岐阜大学のLSM(学習支援システムTACTなど)が、学生のe-ポートフォリオシステム(学生ステータスシステム【crescendo】)にも連動してゆく段階となっている。
- 今後の岐阜大学におけるLMS運用実態の変化に注目される。

LMSの利用状況（未回答者を除く数値）

LMS利用状況		よく使う	時々使う	使わない
自大学	授業の出席確認	24.1%	19.3%	50.6%
	授業教材などの提示	72.3%	25.3%	2.4%
	課題の提示	71.1%	20.5%	3.6%
	課題の提出	63.9%	24.1%	6.0%
	小テスト	24.1%	18.1%	45.8%
	オンデマンド授業（動画）の配信	28.9%	30.1%	34.9%
全国	授業の出席確認	36.2%	19.0%	40.7%
	授業教材などの提示	79.7%	16.7%	2.5%
	課題の提示	78.2%	17.5%	2.8%
	課題の提出	76.5%	17.6%	4.2%
	小テスト	36.5%	21.2%	35.3%
	オンデマンド授業（動画）の配信	34.4%	37.6%	25.0%

【 調査概要 】

- 授業教材の提示、課題の提示、課題の提出に LMS が活用されているのは、別途 学生の ICT 調査結果にも反映している。
- 授業の出席確認に LMS を使用しないのは、出席確認システムが別に運用されていることが反映していると思われる。
- 小テストでの利用が少ない。のは、現 LMS が小テスト実施には使いにくい面があるのかもしれない。
- 医学系において LMS の利用回答数が少ないのは、実習系の授業が多いことが、LMS の教員利用に影響しているのかもしれない。
- 人文系の教員に、小テスト、動画配信の利用が低いのは、技術的な壁を高く感じていることがあると予想される。

LMSの利用状況（未回答者を含む数値）

授業の出席確認

行ラベル	医・歯・薬・人文・社会理	工・農	総計
よく使う	8.7%	17.4%	14.7%
時々使う	4.3%	15.2%	11.8%
使わない	26.1%	30.4%	32.4%
(空白)	60.9%	37.0%	41.2%
総計	23	46	68

授業教材などの提示

行ラベル	医・歯・薬・人文・社会理	工・農	総計
よく使う	26.1%	45.7%	48.5%
時々使う	8.7%	21.7%	13.2%
使わない	4.3%	1.5%	1.5%
(空白)	60.9%	32.6%	36.8%
総計	23	46	68

課題の提示

行ラベル	医・歯・薬・人文・社会理	工・農	総計
よく使う	26.1%	54.3%	41.2%
時々使う	8.7%	13.0%	13.2%
使わない	4.3%	2.9%	2.2%
(空白)	60.9%	32.6%	42.6%
総計	23	46	68

課題の提出

行ラベル	医・歯・薬・人文・社会理	工・農	総計
よく使う	26.1%	43.5%	39.7%
時々使う	4.3%	19.6%	14.7%
使わない	8.7%	2.2%	2.9%
(空白)	60.9%	34.8%	42.6%
総計	23	46	68

小テスト

行ラベル	医・歯・薬・人文・社会理	工・農	総計
よく使う	4.3%	15.2%	17.6%
時々使う	17.4%	6.5%	11.8%
使わない	17.4%	37.0%	25.0%
(空白)	60.9%	41.3%	45.6%
総計	23	46	68

オンデマンド授業（動画）の配信

行ラベル	医・歯・薬・人文・社会理	工・農	総計
よく使う	8.7%	21.7%	17.6%
時々使う	21.7%	15.2%	19.1%
使わない	8.7%	30.4%	19.1%
(空白)	60.9%	32.6%	44.1%
総計	23	46	68

■ 参考情報

「現在のLMS利用で、上記設問以外でよく使う機能」の回答内容

- 授業案内
 - お知らせ（アナウンス）、成績提示、評価コメント返却
 - 対面小テストの点数表示
 - 受講生への連絡
 - 諸連絡
 - 連絡機能 告知
 - 大雨等が予想される場合の大学の規定・取り扱いについてのアナウンス
 - スケジュールについてのアナウンス
 - お知らせ、クイズ
 - 学生への連絡や問い合わせ対応など
-
- 掲示板。ファイル共有。
 - 対面授業とのハイブリッド授業（対面授業を欠席した学生も、LMS上で資料を読み課題を提出することで、出席扱いとする）
 - 授業リフレクションの提出とコメントの往還
-
- 受講者との/受講者間のコミュニケーション
 - 学生とのコミュニケーション
 - メッセージのやり取り
 - 個別のメッセージ
 - 欠席者への課題等の個別連絡

※ 授業リフレクションとは、

例として、授業前に、受講者が「受講の目標」などを記入し、授業直後に、授業の流れにそって、得られたこと、考え直したことなどを記入。このシートをもとに、授業の振り返りをおこなう形式をとることが多い。

【 調査概要 】

- 教員・学生間の情報発信に使用されている
教員から学生へ
にとどまらず
教員と学生相互の意見交換
個別対応
に利用されてもいることがわかる。

オンライン/オンデマンド授業の困りごと	学生の反応がわからない	動画コンテンツ作成	教材作成(動画除く)	著作権への配慮	実験/実習/実技などの行い方	大学設備/機材が古い/用途に合っていない	配信機材トラブルで授業中断	学生側の機材やネット環境のトラブルで授業が中断	身体への負荷	オンライン・オンデマンド授業はない	特に困っていることはない
自大学	46.6%	18.3%	14.5%	44.3%	11.5%	12.2%	7.6%	11.5%	14.5%	13.0%	17.6%
全国	50.8%	24.3%	17.1%	40.4%	16.7%	13.0%	13.8%	18.8%	21.4%	9.8%	14.1%

行ラベル	23	46	68	137
	医・歯・薬	人文・社会	理・工・農	総計
(空白)	4.3%		7.4%	4.4%
オンライン・オンデマンド授業はない	4.3%	8.7%	17.6%	12.4%
特に困っていることはない	8.7%	23.9%	14.7%	16.8%
学生の反応がわからない	65.2%	30.4%	47.1%	44.5%
著作権への配慮	56.5%	45.7%	35.3%	42.3%
動画コンテンツ作成	34.8%	19.6%	10.3%	17.5%
教材作成(動画除く)	13.0%	19.6%	10.3%	13.9%
身体への負荷がかかるようになった(目の疲れ体の痛みなど)	21.7%	23.9%	4.4%	13.9%
大学設備や提供機材が古い、用途に合っていない	21.7%	13.0%	7.4%	11.7%
学生側の機材のトラブルやネットワーク環境のトラブルで授業が中断する	13.0%	15.2%	7.4%	10.9%
実験やフィールドワーク、実技などの授業の行い方	8.7%	13.0%	10.3%	10.9%
配信機材のトラブルで授業が中断する	17.4%	8.7%	2.9%	7.3%
2023年度に関しては、学生がLMS経由で提出した課題が、自分で書いたものかChatGPTに生成させたものかが区別できない。せめてもの対策として、課題を課すときには同時にChatGPTが生成した解答をあらかじめ学生に配布し、自動生成された解答の問題点を指摘するようにしている。		2.2%		0.7%
LMSのデータ容量が少ない		2.2%		0.7%
アップの方法が変わったのでよく分からない		2.2%		0.7%
オンライン・オンデマンド授業を以前行ったが、上記項目の問題が多くあるため、授業にはふさわしくないと判断した。			1.5%	0.7%
クイズや課題の提出方法などがLMSの種類により微妙に異なる			1.5%	0.7%
学生の反応のタイムラグ			1.5%	0.7%
総計	84	151	185	420

【調査概要】

- 左図は空白回答も含めての集計表。
- オンライン・オンデマンド授業がない比率は、12.4%と低い。
対面授業が2022年度から復帰してきたいた岐阜大学でも、100%対面ではないようだ。(併用)
- 全国の回答比率どおり、下記の2項目が教員の困りごと。
学生の反応がわからない 44.5%
著作権への配慮 42.3%
医学系では、上記に加えて
動画コンテンツ作成 34.5%
が続いているのは、実習系の授業へ向けた授業準備が多いためと予想される。
- 医学系では下記の比率も高い。
配信機材のトラブルで
授業が中断する 17.4%
授業を行う教室施設の問題か、配信したい素材の違いか、ヒヤリングが必要な点となる。

対面授業の困りごと	受講者数制限がある	オンライン授業を学生が好む	オンライン授業より質問が出ない	授業の進度管理が難しくなった	予習・復習の課題を出しづらくなった	特に困っていることはない
自大学	3.1%	9.9%	3.1%	2.3%	3.1%	75.6%
全国	3.2%	16.9%	6.1%	5.7%	2.7%	61.5%

行ラベル	23 46 68 137			総計
	医・歯・薬	人文・社会	理・工・農	
(空白)	8.7%	2.2%	8.8%	6.6%
特に困っていることはない	78.3%	76.1%	67.6%	72.3%
オンライン授業を学生が好む	4.3%	8.7%	10.3%	8.8%
オンライン授業より質問が出ない	4.3%	2.2%	2.9%	2.9%
受講者数制限がある	4.3%		4.4%	2.9%
予習・復習の課題を出しづらくなった		8.7%		2.9%
授業の進度管理が難しくなった	4.3%	2.2%	1.5%	2.2%
オンライン授業を学生が好むと似ているが、個人的理由で欠席しても、動画の視聴を希望することがある。			1.5%	0.7%
グループワークでの感染対策をどうするか判断が難しい、実習先との調整が難しい、従来は対面で行っていた活動をどこまで戻してよいのか判断が難しい		2.2%		0.7%
コロナ関連での欠席者への個別対応が必要になること		2.2%		0.7%
学生が休みやすい環境、例えば、熱があるので考慮してほしい、等の対応をする必要がでてきた。			1.5%	0.7%
欠席をする(した)学生から、オンライン授業での対応を求められるようになった。		2.2%		0.7%
個別対応の学生が年々増えている			1.5%	0.7%
広い教室が必要になった			1.5%	0.7%
体調不良で休む学生への個別対応が増えた		2.2%		0.7%
対面授業の場合、病欠者のための授業動画作成が追加となり、その時間を作るのが難しい。		2.2%		0.7%
板書しても、学生はノートを取らないし、教科書も購入しない、オンライン資料を配布して欲しいなどの要望が多い			1.5%	0.7%
予習する習慣が無く、計算力が低下している受講生の増加。			1.5%	0.7%
総計	45	96	133	274

【 調査概要 】

- 左図は空白回答も含めての集計表。
- 対面授業で困っている事項は、少ない。

コロナ感染者対策への配慮（個別対応）が目立つ。

- 人文系で下記の回答が多かったことが気になる点。ヒヤリングが必要。

予習・復習の課題を出しづらくなった 8.7%
(4/46名)

授業をすすめるにあたり大学から求められていることはありますか

医・歯・薬・健康 関連	40歳代	電気代の節約
理・工・農 関連	50歳代	電気使用量の制限(エアコン稼働時期など)
人文・社会・教育 関連	20～30歳代	エアコンなどの使用制限
人文・社会・教育 関連	20～30歳代	・紙や電気使用量の制限
理・工・農 関連	50歳代	対面を基本
理・工・農 関連	40歳代	なるべく対面授業にする
人文・社会・教育 関連	50歳代	オンラインは避けるように言われた。
人文・社会・教育 関連	20～30歳代	対面授業を行う。
人文・社会・教育 関連	50歳代	対面授業にする
人文・社会・教育 関連	40歳代	原則として対面授業とすること。
医・歯・薬・健康 関連	40歳代	対面とオンラインとのベストミックスの授業を求められる。
医・歯・薬・健康 関連	50歳代	オンラインの利活用
理・工・農 関連	50歳代	対面とオンラインの両方の希望に応えること
理・工・農 関連	40歳代	オンラインとのバランスをよくする
理・工・農 関連	50歳代	対面とオンライン授業のベストミックス
理・工・農 関連	60歳代以上	オムニバスの授業でオンラインを前提にされてしまうものがある。自分は対面でやりたいのでお願いして特例で対面でやっている。(希望通りに対面でやってるので現時点で問題ないが、いつまでも許容してもらえるかがわからない。)
理・工・農 関連	60歳代以上	講義を欠席した学生が欠席した講義の内容を講義資料などで学習できるようにすること。
理・工・農 関連	50歳代	オンライン講義の場合、当日欠席者のための録画および後日の動画公開
人文・社会・教育 関連	60歳代以上	オンラインの授業や補習の圧力あり
人文・社会・教育 関連	40歳代	完全にオンライン化になった。
医・歯・薬・健康 関連	60歳代以上	学生の理解度を高めるための授業の工夫
理・工・農 関連	60歳代以上	コアカリに準じて行う
理・工・農 関連	40歳代	学生の満足度の向上。
理・工・農 関連	50歳代	授業アンケートの実施
理・工・農 関連	50歳代	多様性への配慮
人文・社会・教育 関連	40歳代	e-learningを充実させる
人文・社会・教育 関連	20～30歳代	・学生の満足度の向上 ・アクティブラーニング ・他大学との連携 ・地域との連携 ・計画書と報告書の提出 ・予算が少ないので非常勤講師を減らす

■ 授業を進めるにあたり大学から求められていることは、下記のような項目に整理される

- ・電気代の節約
- ・原則対面授業にすること
(理工系、人文系)
- ・対面とオンラインの授業のバランスをとること
(医療系、理工系)
- ・オンライン授業の録画公開
- ・欠席した学生への配慮
- ・学生の理解度、満足度の向上策の実施

授業を進めるにあたって生協にサポートしてほしいこと、あったらよいと思うサービスはありますか

その研究分野は以下のうち	先生の年齢を教える	授業を進めるにあたって生協にサポートしてほしいこと、あったらよいと思うサービスはありますか	実現度予測
理・工・農 関連	50歳代	電気代払うのに苦労しているのでサービス導入は無理では	-----
理・工・農 関連	50歳代	予算の裏付けがない(お金がない)ので、他のサポートを有償(サービス)で受けることを考えることもない。	-----
理・工・農 関連	50歳代	講義に関しては特はない	-----
理・工・農 関連	40歳代	すでにサポートしているが、学生に対するPCの使い方支援の講座	◎
人文・社会・教育 関連	50歳代	営業時間を8:00~20:00としてください。自動レジを設置し、無人経営でいかがでしょうか？	△
理・工・農 関連	40歳代	オンライン・オンデマンド講義から対面講義に戻っているにも関わらず、対面講義や実習に必要なグラフ用紙等が店頭で品切れになる事態が続出しているため、それを解消して頂きたい。	◎
人文・社会・教育 関連	20~30歳代	・新書、学術書の販売コーナーの拡大 ・ゼミ合宿向けの安価だが落ち着いて学習できる宿舎の紹介	◎
医・歯・薬・健康 関連	40歳代	PCやその周辺機器の供給、文具類の供給、教科書等の販売 など	◎
人文・社会・教育 関連	20~30歳代	学生の印刷環境の整備。USBやネットファイルからの印刷など。所属大学のコピー機が古いためあまり利用学生を見かけない。	△
人文・社会・教育 関連	60歳代以上	大学生協のウェブサイトで、学生の立場から、ChatGPTやその他の生成AIとの利口な付き合い方を解説したページを公開してほしい。(学期末レポートの執筆を代行させるのはダメでも、レポートのアウトライン作成の参考にするには役立つとか、外国語の自由作文の執筆を代行させるのはダメでも、自分で書いた外国語の文章の添削に使うには役立つとか。)	◎
人文・社会・教育 関連	50歳代	授業紹介のための動画作成をお願いできるとありがたい。	△
理・工・農 関連	40歳代	教科書のリサイクルなど	△
医・歯・薬・健康 関連	40歳代	看護学特有の物品になるので難しいとは思いますが、授業(演習)で使用する車椅子のタイヤ交換やワゴンの点検、修理業務。提携業者に依頼すると高額になるため、生協以外で過去に購入したものについても、学内の生協で交換部品購入とセットで依頼できると大変有難いと思います。	◎ タイヤ交換
理・工・農 関連	50歳代	著作権処理を含む、講義資料(電子媒体)の作成(電子書籍が良い)	◎
医・歯・薬・健康 関連	50歳代	電子化書籍の紹介	◎
医・歯・薬・健康 関連	20~30歳代	マイク性能による比較	?
医・歯・薬・健康 関連	50歳代	学生が何を求めているかのアンケート 聞き取り	◎

コロナ禍前とコロナ禍後で、学生の変化について感じていることはありますか

コロナ前後の学生の変化	出席率がよくなった	出席率が悪くなった	学生から対面質問が多くなった	学生から対面質問が少なくなった	学生とのメール・チャットが増加した	学生とのメールやチャットが減少した	学生の成績が向上した	学生の成績が悪くなった	学生・保護者からの相談が増えた	学生・保護者からの相談が減少した	特に感じている変化はない
自大学	6.9%	16.8%	4.6%	15.3%	33.6%	0.0%	1.5%	13.0%	2.3%	0.8%	41.2%
全国	9.9%	17.2%	5.9%	14.9%	33.6%	1.9%	3.6%	15.0%	5.5%	0.6%	29.3%

行ラベル	23 医・歯・薬	46 ・人文・社会	68 理・工・農	137 総計
(空白)	4.3%		7.4%	4.4%
特に感じている変化はない	30.4%	43.5%	39.7%	39.4%
学生とのメールやチャットでのやりとりが増加した	26.1%	39.1%	29.4%	32.1%
授業の出席率が悪くなった	21.7%	13.0%	16.2%	16.1%
学生からの対面の質問が少なくなった	21.7%	13.0%	13.2%	14.6%
学生の成績が悪くなった	4.3%	4.3%	20.6%	12.4%
授業の出席率がよくなった	4.3%	8.7%	5.9%	6.6%
学生からの対面の質問が多くなった	4.3%	10.9%		4.4%
授業に関わる学生・保護者からの相談が増えた		4.3%	1.5%	2.2%
学生の成績が向上した		4.3%		1.5%
いい加減な内容での提出が増えた			1.5%	0.7%
オンデマンド授業では、学生の成績に差がつくようになった			1.5%	0.7%
コミュニケーションの取り方が下手な学生が増えた			1.5%	0.7%
挨拶すらしない学生が増えた。授業だけではなく研究室への出席状況も悪化した。			1.5%	0.7%
学生の反応が薄い			1.5%	0.7%
学生同士の結び付が弱化した		2.2%		0.7%
居眠りする学生が増加した			1.5%	0.7%
欠席への抵抗感が低くなった	4.3%			0.7%
欠席連絡がメール等で来るようになった			1.5%	0.7%
授業に関わる学生・保護者からの相談が減少した			1.5%	0.7%
対面授業を面倒と感じているように思う	4.3%			0.7%
総計	51	112	162	325

【 調査概要 】

- 左図は空白回答も含めての集計表。
- 変化があった約6割の先生で、その変化内容を順位別に並べたのが左の表。
- 変化を感じている約6割の内
 - ・ プラス面
 - 学生とのメールやチャットのやりとりが装荷した 32.1%
 - ・ マイナス面
 - 授業の出席率が悪くなった 16.1%
 - 学生からの対面の質問が少なくなった 14.6%
 - 学生の成績が悪くなった 12.4%
- 医学系で下記の項目が高い傾向
 - 授業の出席率が悪くなった 21.7%
 - 学生からの対面の質問が少なくなった 21.7%
- 理工系で下記の項目が高い傾向。
 - 学生の成績が悪くなった 20.6%
- 人文系で下記の項目が高い傾向。
 - 学生とのメールやチャットのやりとりが装荷した 39.1%

対面授業で、学生がデバイスやデジタルコンテンツを持ち込んで授業中に利用することについて、どのように思われますか

対面授業のデバイス持ち込み	積極的に使ってもらいたい	学生が自身で利用したいなら使えばよい	どちらともいえない	あまり良いとは思えない
自大学	30.5%	50.4%	13.0%	6.1%
全国	43.1%	41.0%	11.3%	4.6%

行ラベル	医・歯・薬	人文・社会	理・工・農	総計
(空白)	4.3%		7.4%	4.4%
積極的に使ってもらいたい	17.4%	41.3%	25.0%	29.2%
学生が自身で利用したいなら使えばよい	52.2%	41.3%	51.5%	48.2%
どちらともいえない	26.1%	13.0%	7.4%	12.4%
あまり良いとは思えない		4.3%	8.8%	5.8%
総計	23	46	68	137

【調査概要】

- 左下図は空白回答も含めての集計表。
- 全体としては、50.4%が学生の判断にゆだねている数値とも言える。
人文系で、積極的利用をすすめる教員が多い傾向となっている。
- 学生がデバイスを活用した学習をすることに概ね好意的な印象を持っている肯定派が8割を超えているという傾向である。

その研究分	先生の年齢を教	対面授業で、学生がデ	上記の理由があればお聞かせください
理・工・農	40歳代	あまり良いとは思えない	●授業中の機器の利用は授業に関係することなのかどうか判別がつきづらいから。 ●その機器の利用がむしろこれまでの関数電卓を利用した計算力やグラフ用紙へのプロット力を低下させているから。
理・工・農	60歳代以上	あまり良いとは思えない	講義に集中しない学生が増えるため
理・工・農	50歳代	あまり良いとは思えない	授業中の機器の利用は授業に関係することなのかどうか判別がつきづらい
理・工・農	50歳代	あまり良いとは思えない	教員の言葉に意識が集中できていない
理・工・農	60歳代以上	あまり良いとは思えない	学生が授業中に別の講義のレポートを作成するなど、いわゆる「内職」しているのを防止しづらい。
人文・社会	60歳代以上	あまり良いとは思えない	それは予習復習でむしろ利用すればよい。
人文・社会	60歳代以上	あまり良いとは思えない	集中力の低下
理・工・農	40歳代	どちらともいえない	講義の教材を見ているかどうか疑わしいこともあるため
人文・社会	20～30歳代	どちらともいえない	課題などを生成AIを利用して提出し、学生自身の考察が無い場合がある。 撮影などされる場合に、教員の授業の著作権を侵害される。 ゼミ系の授業の場合は、各自PCを持参してもらった方が良い場合もある。 デバイスやデジタルコンテンツを利用しても、考える力が伸びているとは思わない。情報収集や共有が便利になる程度。
人文・社会	50歳代	どちらともいえない	スマホ等のデバイスを使用させると、何をしているか分からない。
人文・社会	20～30歳代	どちらともいえない	授業にかかわることであれば、気になったことを調べるなど積極的に活用してほしい。ただし、デジタルコンテンツにかかわる危険性などをきちんと理解すること、授業の進行の妨げにならないように配慮することが必要。
医・歯・薬	40歳代	どちらともいえない	学習のためであるなら自由に使ってもらえばよいが、関係ないネット検索など他事をする誘惑に負ける学生が多く出てしまう。

- 左表と次ページの記入いただいたコメントを踏まえると、ベースとして下記の考え方があるように思われる。

授業中に利用する上での注意点、メリット、デメリットについては、「それを使いこなす技術の習得も大学生が身につけるべきもの」。

その一方で、学生の情報リテラシーの基本が身につけていない点を危惧するコメントも、いわゆる肯定派にもみられる。

その研究分	先生の年齢を教	対面授業で、学生がデ	上記の理由があればお聞かせください
理・工・農	60歳代以上	学生が自身で利用したいなら使えばよい	特に禁止する理由がないので。(「ダメ」と指示したこと以外は原則何をやってもよいと思うので。)
理・工・農	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	人それぞれなので、自分に合った機器やノートで行ってもらえればよい。
理・工・農	60歳代以上	学生が自身で利用したいなら使えばよい	学生が何をを用いるかに関心はない
理・工・農	60歳代以上	学生が自身で利用したいなら使えばよい	紙媒体などよりも教育効果の上がることはやってほしい
理・工・農	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	学生が自分で必要、あるいは便利と思うものは使ってほしい
理・工・農	40歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	他の受講生の邪魔にならないのであれば好きにしたいと思う。
理・工・農	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	紙のノート代わりにノートPCやパッドを利用するため
理・工・農	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	スクリーンでは見えない部分も手元のタブレットで拡大して、講義中に学生が閲覧するなら、大いに歓迎する。実際に講義前にプレゼン資料をアップすると学生は手元でも資料をみる。
理・工・農	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	padなどはノートがわりに使用しており、板書などを書き損ねて場合は、画像を撮ったりしているので、それなりに使用すればいいのではないかと思います。
人文・社会	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	とりわけゼミの場合には、不明な点はすぐに調べてもらうことで議論が進むため
人文・社会	60歳代以上	学生が自身で利用したいなら使えばよい	学生が自ら判断すること
人文・社会	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	その場で回答を得ることで次に進めるならばOK
人文・社会	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	LMSにて配信した講義スライド等を学生が自分の端末を持ち込んで授業に利用する事は良いと思うので。
医・歯・薬	50歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	時代の流れがそうなので仕方ないと思う
医・歯・薬	40歳代	学生が自身で利用したいなら使えばよい	スマホが定着している今、制限はできない。
理・工・農	50歳代	積極的に使ってもらいたい	学習は学生個人で行うことである。使える機器は積極的に使うべきだし、それを使いこなす技術の習得も大学生が身につけるべきものだと考える。
理・工・農	40歳代	積極的に使ってもらいたい	レポート、テストの管理がしやすい
人文・社会	40歳代	積極的に使ってもらいたい	学習の効率上がるため。大学教育では、学生自身が自分の学習に責任をもって然るべきなので、デバイスの仕様が授業内容に関係しているのか否かと教員が教室で管理を行う必要はない。
人文・社会	60歳代以上	積極的に使ってもらいたい	講義の中で言及した書籍・資料・歴史的事実・社会問題などについて、学生がすぐにスマホで検索して確かめることができるのは便利である。特に少人数ゼミでは、学生が発表で言及した情報を直ちにゼミ生全員で共有することができ、学習効果が上がっている。
人文・社会	50歳代	積極的に使ってもらいたい	教員養成課程では情報機器の利用の習熟が求められているから
人文・社会	40歳代	積極的に使ってもらいたい	授業をアクティブにするために有効だと考えられるため。
人文・社会	50歳代	積極的に使ってもらいたい	便利なものは使えばよい
人文・社会	50歳代	積極的に使ってもらいたい	時代の要請
医・歯・薬	50歳代	積極的に使ってもらいたい	時代の流れと利活用するメリットを理解させる

■ 2022年11月に公開されたChatGPTなどの普及に見るように、デジタルを活用した学びに大きな変化が生じている。

新しい学びのツールの活用の仕方を、教員、学生がともに作り上げてゆかないと新しい技術に振り回されるだけになる危険性がある。

従来の授業方法、学び方では、教育効果、個人の成長が確保されなくなる危険性と背中合わせであることが最大のリスクといえる。

授業を進行するにあたって、不足していると思われる学生のスキルを教えてください(最大3つ)

不足している学生のスキル	情報リテラシー	文章力	英語や語学力	パソコンスキル	論理的思考力	コミュニケーション力
自大学	38.2%	51.9%	14.5%	19.8%	48.9%	38.9%
全国	41.7%	65.6%	21.1%	26.4%	59.2%	40.1%

行ラベル	23 医・歯・薬	46 人文・社会	68 理・工・農	137 総計
(空白)	4.3%		7.4%	4.4%
文章力	52.2%	47.8%	50.0%	49.6%
論理的思考力	39.1%	34.8%	57.4%	46.7%
コミュニケーション力	52.2%	37.0%	32.4%	37.2%
情報リテラシー	52.2%	41.3%	27.9%	36.5%
パソコンスキル	17.4%	21.7%	17.6%	19.0%
英語や語学力	13.0%	17.4%	11.8%	13.9%
スキルよりも気持ち 熱意	4.3%		1.5%	0.7%
やる気			1.5%	0.7%
批判的思考		2.2%		0.7%
数学力			1.5%	0.7%
ノートを探る力		2.2%		0.7%
国語力		2.2%		0.7%
授業レベルでは特になし			1.5%	0.7%
学生のスキルに合わせて行うのが講義なのでとくにない			1.5%	0.7%
特になし(授業・受講生による差が大きい)		2.2%		0.7%
特になし		2.2%		0.7%
総計	76	143	207	426

※ 情報リテラシーとパソコンスキルの違い

◆ 情報リテラシー

情報リテラシーは情報自体を使いこなす能力。主に「情報を探し出す能力」「情報を精査する能力」「情報を使う能力」の3つが基本要素といわれる。ITは便利であると同時に情報漏えいなど、誤った運用をした場合のリスク(炎上などもふくめて)も大きくなっているモラルやプライバシー保護、セキュリティ対策だけでなく、データサイエンスという視点での整理が必要とされている。

◆ パソコンスキル

PCやソフトウェアを使いこなすスキルや知識のこと

【 調査概要 】

■ 左図は空白回答も含めての集計表。

■ 左図は、不足していると思われる学生のスキル上位順に並べている。

文章力 49.6%

※ どの系列の教員も指摘

論理的思考力 46.7%

※ 理工系の教員の指摘が57.4%と高い

コミュニケーション力 37.2%

※ 医学系の教員に 52.2%と高い

情報リテラシー 37.2%

※ 医学系52.2%、人文系の教員に高い

パソコンスキル 19.3%

※ 不足しているのは情報リテラシーとどの系列の教員も指摘している

英語や語学力 13.9%

※ 人文系の教員の指摘が高い

■ それぞれのスキルアップに対して岐阜大学生協が貢献できる事業活動は、下記となる。

4年間の事業展開として太くして行く必要がある。

・ 文章力・論理的思考力アップ

→ 読書推進活動

・ コミュニケーション力アップ

→ 新学期講座

・ パソコンスキルアップ

→ 新学期講座(パソコン)、社会人ICT講座

・ 英語力アップ

→ TOEIC 連続講座、語学研修、海外研修

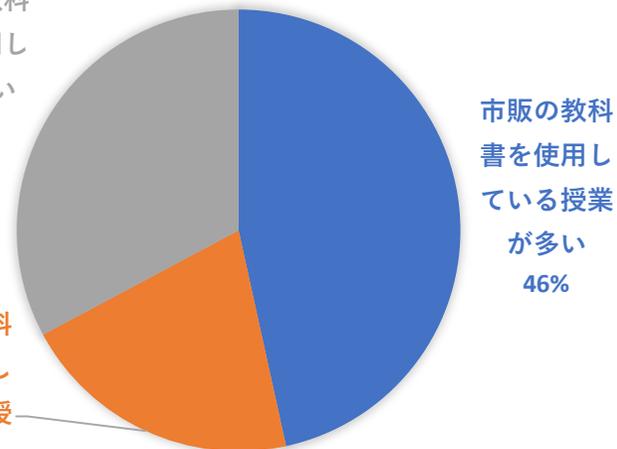
担当授業で指定している市販の教科書はありますか

指定している市販教科書	市販の教科書を使用している授業が多い	市販の教科書を使用していない授業が多い	市販の教科書は使用していない
自大学	46.6%	20.6%	32.8%
全国	50.0%	24.3%	25.7%

行ラベル	医・歯・薬	人文・社会理	工・農	総計
市販の教科書を使用している授業が多い	59.1%	28.3%	55.6%	46.6%
市販の教科書を使用していない授業が多い	9.1%	23.9%	22.2%	20.6%
市販の教科書は使用していない授業を担当している	31.8%	47.8%	22.2%	32.8%
	22	46	63	131

市販の教科書は使用していない
33%

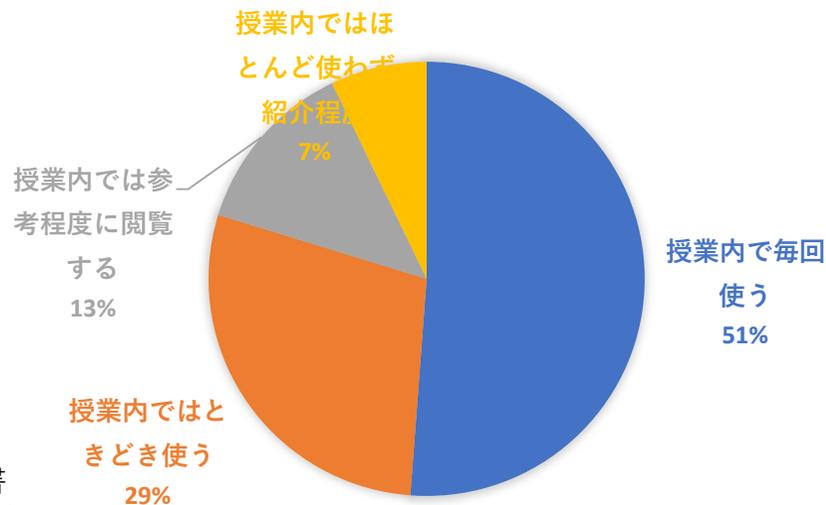
市販の教科書を使用していない授業が多い
21%



「市販の教科書を使用している」とお答えの方にお聞きします。指定されている教科書の使用頻度を教えてください

指定教科書の使用頻度	授業内で毎回使う	授業内ではときどき使う	授業内では参考程度に閲覧する	授業内ではほとんど使わず紹介程度
自大学	48.9%	27.3%	12.5%	6.8%
全国	53.2%	21.7%	14.7%	5.5%

行ラベル	医・歯・薬	人文・社会理	工・農	総計
授業内で毎回使う	33.3%	70.8%	42.9%	48.9%
授業内ではときどき使う	33.3%	16.7%	30.6%	27.3%
授業内では参考程度に閲覧する	13.3%		18.4%	12.5%
授業内ではほとんど使わず紹介程度	13.3%	4.2%	6.1%	6.8%
総計	15	24	49	88



【調査概要】

- 教科書にそって授業が行われる高校時代までとの違いは、大学での教科書の取り扱い実態にも表れる。大学における使われ方の理由を知る必要がある。
- 市販の教科書を使用する授業は半数 46%に満たない。また、教科書の使い方も、毎回授業内で使うのは半数 51%となっている。
- 医学系で、市販の教科書を使用している授業が多い 59.1%となっているが、回答者はほぼ看護学科の教員である。

- 大学の授業での教科書の取り扱いが、高校時代と異なる理由については、次ページ以降がヒントとなる。

その研究分	先生の年齢を	学生に市販の教科書をどのように使ってもらいたい(読んでもらいたい)などお考えをお聞かせください
医・歯・薬・検	40歳代	授業前に該当箇所を読み、テスト前にも復習として読んでもらいたい。実習等で知識の確認が必要な際は、教科書を振り返って欲しい。
医・歯・薬・検	40歳代	自己学習する上で補助として使用してもらいたい
医・歯・薬・検	60歳代以上	使いこなす。熟読する
医・歯・薬・検	20～30歳代	自己学習に活用してほしい
医・歯・薬・検	50歳代	自己学習
人文・社会	20～30歳代	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心のあるところからばらばらめくってみる ・授業の予習復習に活用する ・試験勉強やレポート課題作成の際に活用する ・他の授業でも活用する
人文・社会	50歳代	「就職活動や、就職後の職業生活にも必ず役に立つ教科書を指定している」旨を伝えていきます。学生にとっては高価なものなので、該当授業では毎回参照するように心がけています。
人文・社会	50歳代	予習復習に使用してもらいたい。
人文・社会	50歳代	予復習の他、卒業後も参考にしてほしい
人文・社会	40歳代	講義で使わないページでも自主的に読んでおいてほしい。
人文・社会	60歳代以上	予習くらいしてきなさい。質問(疑問)がある程度には読み込んでほしい。
人文・社会	40歳代	指定の教科書は個人で学習を進められる内容になっているため、力のある学生は、授業の進捗に関わらず自律的に学習してほしい。
人文・社会	20～30歳代	授業の内容を補う補助教材として。
人文・社会	50歳代	LMSで講義の次回の講義の案内をしている。事前に次回の単元部分を教科書で予習してもらいたい。

■ 教員がおすすめする教科書の活用法のアウトラインは下記となる。

・講義の内容は、基本的に教科書に書いてあるので、それを読んで理解できないことを、講義で理解してもらえればいいと思う。

講義の予習・復習の際の参考としての利用してほしい、それをもとに、さらにわからないことがあれば、自発的に別の資料を調べるような使い方をしてほしい。具体的には、

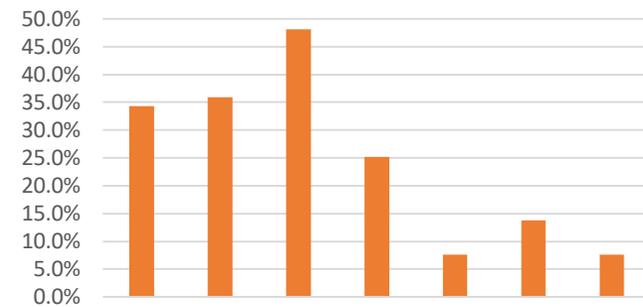
- ・自分の関心のあるところからばらばらめくってみる
- ・授業の予習復習に活用する
- ・試験勉強やレポート課題作成の際に活用する
- ・他の授業でも活用する

その研究分	先生の年齢を	学生に市販の教科書をどのように使ってもらいたい(か)か(読んでもらいたい)か)などお考えをお聞かせください
理・工・農	20～30歳代	むしろ指定教科書のみ勉強に限らないで色々学んでほしい。
理・工・農	60歳代以上	教科書の指示したところは最低限すべて読むべきと考える。
理・工・農	60歳代以上	特になし。すきにすればよい。
理・工・農	50歳代	著者・金額によって偏りがあるため、指定教科書以外も図書館等で見てみることを勧めている
理・工・農	50歳代	講義の参考にしてほしい
理・工・農	50歳代	復習に使ってもらいたい
理・工・農	50歳代	読んで考えてほしい。問題も解いてほしい。そのために時間を使ってほしい。
理・工・農	60歳代以上	講義内容を復習するための教科書(資料)として
理・工・農	50歳代	講義も参考書として使って欲しい
理・工・農	50歳代	まずは一通り目を通してほしい
理・工・農	50歳代	よく読むことです。
理・工・農	40歳代	講義の内容は基本的に教科書に書いてあるのでそれを読んで理解できないことを講義で理解してもらえればよいと思う。
理・工・農	50歳代	メモを書き込みなどして自分独自のものに育ててほしい
理・工・農	40歳代	教科書を指定しても、購入せずに、講義をのりきっており、強く、購入せよともいえず、教科書なしでも試験に臨めるような講義をしている。できれば、教科書を通読してほしいと思っている。
理・工・農	50歳代	講義の予習・復習の際の参考としての利用
理・工・農	50歳代	それをもとに、さらにわからないことがあれば自発的に別の資料を調べるような使い方をしてほしい。
理・工・農	40歳代	講義の補足で目を通してほしい。 学年が上がり研究室に配属された後、研究に関する基礎知識を増やすために、読んで(読み直して)ほしい。
理・工・農	50歳代	1冊は何か関連分野の書籍を購入して欲しい。1冊を指定するより、学力にあったものや欲しいと思ったものを買って欲しい。
理・工・農	60歳代以上	基礎的な事項の学習

「市販の教科書を使用していない」場合は、何を使って授業を進行していますか

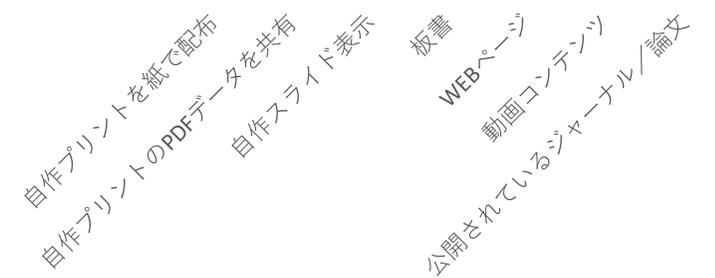
市販教科書以外何を使うか	自作プリントを紙で配布	自作プリントのPDFデータを共有	自作スライド表示	板書	WEBページ	動画コンテンツ	公開されているジャーナル／論文
自大学	34.4%	35.9%	48.1%	25.2%	7.6%	13.7%	7.6%
全国	32.7%	43.2%	49.7%	20.1%	9.2%	15.4%	9.5%

行ラベル	13 医・歯・薬	38 ・人文・社会理	48 ・工・農	99 総計
自作スライド表示	45.5%	50.0%	47.6%	48.1%
自作プリントのPDFデータを共有	27.3%	37.0%	38.1%	35.9%
自作プリントを紙で配布	27.3%	56.5%	20.6%	34.4%
板書	4.5%	23.9%	33.3%	25.2%
動画コンテンツ		15.2%	17.5%	13.7%
WEBページ	4.5%	8.7%	7.9%	7.6%
公開されているジャーナル／論文		10.9%	7.9%	7.6%
市販の教科書を参考書としてすすめている授業を担当している			1.6%	0.8%
	22	46	63	131



「市販の教科書を使わない」理由をお聞かせください

市販教科書使わない理由	授業に適したものが存在しない	部分的に使いただけ	価格が高い(学生の負担が大きい)	絶版になっている	内容が古い／最新の情報・知見が足りない
自大学	90.0%	54.3%	52.9%	7.1%	15.7%
全国	84.1%	46.7%	44.9%	6.4%	13.7%

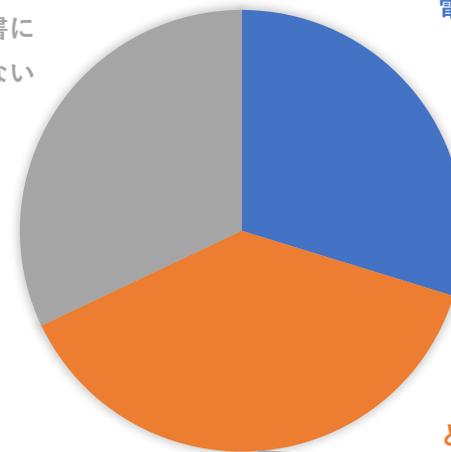


行ラベル	9 医・歯・薬	33 ・人文・社会理	30 ・工・農	72 総計
授業に合う市販の書籍に適したものが存在しない	88.9%	75.8%	100.0%	87.5%
市販の書籍を一冊まるごとはいきれない(部分的に使いただけ)	44.4%	39.4%	70.0%	52.8%
価格が高い(学生の負担が大きい)	33.3%	48.5%	60.0%	51.4%
内容が古い(最新の情報・知見が足りない)		15.2%	20.0%	15.3%
絶版になっている		9.1%	6.7%	6.9%
学生は教科書に載っていないことを聞きたがる	11.1%			1.4%
現在の社会と人々について具体的なイメージをもちにくい、一般の書店で手に入りにくい		3.0%		1.4%
自分の講義に合わせた構成にできる			3.3%	1.4%
全部使わないと学生からクレームが来そう			3.3%	1.4%
教科書を使用していない	9	33	30	72

電子教科書の採用に興味はありますか

電子教科書の採用に興味	すでに電子教科書を採用している	電子教科書に興味がある	どちらともいえない	電子教科書には興味はない
自大学	0.0%	29.8%	38.2%	32.1%
全国	3.7%	30.1%	40.5%	25.7%

電子教科書には興味はない
32%



電子教科書に興味がある
30%

どちらともいえない
38%

行ラベル	医・歯・薬	人文・社会理	工・農	総計
すでに電子教科書を採用している	0%	0%	0%	0%
電子教科書に興味がある	47.8%	17.4%	29.4%	28.5%
どちらともいえない	30.4%	32.6%	41.2%	36.5%
電子教科書には興味はない	17.4%	50.0%	22.1%	30.7%
(空白)	4.3%		7.4%	4.4%
総計	23	46	68	137

電子教科書の採用によるメリットだと思う点を教えてください

電子教科書採用メリット	授業のポイントを学生へ事前事後に明示しやすい	ログ閲覧機能を活かし、学生の授業の進捗を見られる	ログ閲覧機能を活かし、授業計画を検討しやすい	授業で使用する資料・教材を作る必要がない	学生がいつでも持ち歩けること	学生のICTスキル向上に役立つ	メリットはあまりよくわからない
自大学	21.4%	10.7%	6.1%	15.3%	41.2%	8.4%	22.9%
全国	17.4%	11.5%	5.3%	15.9%	41.2%	10.8%	22.1%

行ラベル	23	46	68	137
	医・歯・薬	人文・社会理	工・農	総計
(空白)	17	31	50	98
メリットはあまりよくわからない	26.1%	32.6%	26.5%	28.5%
学生がいつでも持ち歩けること	8.7%	23.9%	25.0%	21.9%
授業のポイントを学生へ事前事後に明示しやすい	56.5%	32.6%	38.2%	39.4%
授業で使用する資料・教材を作る必要がない	21.7%	17.4%	22.1%	20.4%
ログを閲覧する機能を活かすことで、学生の授業の進捗を見ることができる	34.8%	8.7%	11.8%	14.6%
学生のICTスキル向上に役立つ	17.4%	8.7%	8.8%	10.2%
ログを閲覧する機能を活かすことで、次回以降の授業計画を検討しやすい	13.0%	10.9%	4.4%	8.0%
教科書を安くまたは無料で提供できる	4.3%	8.7%	4.4%	5.8%
教材を作る際に、スキャナーで取り込む作業が減る		2.2%		0.7%
検索しやすい			1.5%	0.7%
場所を取らない			1.5%	0.7%
著作権のクリア			1.5%	0.7%
総計	59	98	150	307

【調査概要】

- 左図は空白回答も含めての集計表。
- 電子教科書を利用されている教員は0%。電子教科書に興味がない教員は32%。

2024年度に小学校5年生から中学3年生の「英語」で電子教科書を先行導入、その後「算数・数学」と続くことは、数年で大学生の学びに対する要求も変化をもたらす。

いつでも持ち歩けること以外のメリットがでる運用がポイントとなる。

電子教科書を使うことに対し、ハードルとなっていることはありますか

電子教科書ハードル	先生がお使いのデバイスがないまたは古い	学生が閲覧のためにデバイスを購入させること	適当なコンテンツがない	先生方への技術的なサポート	学生の対応やサポートの窓口	授業方法を変える必要がある
自大学	3.8%	24.4%	35.1%	13.0%	11.5%	18.3%
全国	5.3%	24.1%	38.9%	12.4%	12.6%	13.9%

行ラベル	23	46	68	137
	15	30	44	89
	医・歯・薬・人文・社会理・工・農 総計			
(空白)	34.8%	34.8%	35.3%	35.0%
適当なコンテンツ(電子教科書)がない	34.8%	41.3%	27.9%	33.6%
学生が教科書を閲覧するのに適当なデバイスを購入させること	34.8%	19.6%	22.1%	23.4%
授業方法を変える必要がある	21.7%	13.0%	19.1%	17.5%
先生方への技術的なサポート	21.7%	17.4%	5.9%	12.4%
学生の対応やサポートの窓口	13.0%	17.4%	5.9%	10.9%
先生がお使いのデバイス(PC,タブレット)がないまたは古い	13.0%	2.2%	1.5%	3.6%
あまり考えていなかった。			1.5%	0.7%
メモの書き込み			1.5%	0.7%
わからない			1.5%	0.7%
価格	4.3%			0.7%
教科書だけでなくPowerPointを使って講義をするので教室に持ち込む機材が増える			1.5%	0.7%
講義室が対応しているのかどうか。			1.5%	0.7%
使う予定はない			1.5%	0.7%
紙のうえにコーヒーマシンのシミやヨダレがついていること(自身の学習の記憶を残すこと)が大切と思う。数十年後も残すもの			1.5%	0.7%
書き込みするのが不便。目的以外の内容に注目してもらえない。			1.5%	0.7%
将来にわたって見れる保証がない。			1.5%	0.7%
総計	56	97	133	286

【調査概要】

■ 左下図は空白回答も含めての集計表。

■ ハードルとなっているのは

- 1、興味がない 35.0%
 - 2、コンテンツがない 33.65%
 - 3、学生デバイスの負担 23.4%
 - 4、授業方法の変更 17.5%
- となっている。

■ 電子化された書籍一般の利用サイトのトップ3は ※
 「ピッコマ」 28.8%
 「LINEマンガ」 28.4%
 「Kindleストア」 22.9%
 (2022年度データ)
 イメージとしては、紙のデジタル化というイメージが強い。
 紙の教科書で可能である「書き込み」「ふせん」「マーキング」などが利用可能である点、さらにそれらを、ネットを通じて教員と学生が共有できる機能など、LMS との連携機能などはあまり知られていない。

■ 人文系、医療系には、教員、学生への技術的なサポートの希望が強い。

※ 『電子書籍ビジネス調査報告書2023』 インプレス

■ ハードルとなっている原因への対策として検討されるべきこと

- 1、興味がない 35.0% → 電子教科書を李よする教育上のメリットが認知されることが必要。
- 2、コンテンツがない 33.65% → 市販教科書の利用率は約50%。自作スライド利用48.1%、自作プリント配布物(紙 34.4%、デジタル 35.9%)のデジタル化がキーワードかもしれない。
- 3、学生デバイスの負担 23.4% → 23年度新入生の4月末のPC保有率は、98.9%。ここはクリアーされている。
- 4、授業方法の変更 17.5% → 単なる紙のデジタル化以上のメリットは何か？ ここがやはりポイントとなる。

今後、市販の教科書・参考書に電子コンテンツがあれば採用を検討したいと思いますか

電子教科書採用検討について	思う	どちらともいえない	思わない	すでに電子教科書を採用している
自大学	28.2%	41.2%	10.7%	0.0%
全国	30.2%	40.5%	9.7%	1.4%

行ラベル	医・歯・薬・人文・社会理	工・農	総計	
(空白)	21.7%	26.1%	22.1%	23.4%
思う	34.8%	17.4%	30.9%	27.0%
どちらともいえない	43.5%	37.0%	39.7%	39.4%
思わない		19.6%	7.4%	10.2%
総計	23	46	68	137

【調査概要】

- 左下図は空白回答も含めての集計表。
- 電子教科書利用のハードルとなっていたコンテンツ問題が解消されるとしても、採用を検討するとした教員は28.2%となっている。
岐阜大学での電子教科書採用が0%である現状。大きな前進事項を評価できる。採用教科書の電子化情報の提供は、必要事項と言える。
- 適切なコンテンツがあれば、採用を検討したい教員はコンテンツがない33.6%と回答した教員の50.0%となっている。

電子教科書を使うことに対し、ハードルとなっていることはありますか と

今後、市販の教科書・参考書に電子コンテンツがあれば採用を検討したいと思いますか クロス集計

行ラベル	47	32	10	(空白)	89
	どちらともいえない	思う	思わない		総計
(空白)	14.6%	10.4%	8.3%	66.7%	48
適当なコンテンツ(電子教科書)がない	45.7%	50.0%	4.3%		46
学生が教科書を閲覧するのに適当なデバイスを購入させること	62.5%	34.4%	3.1%		32
授業方法を変える必要がある	70.8%	16.7%	12.5%		24
先生方への技術的なサポート	64.7%	29.4%	5.9%		17
学生の対応やサポートの窓口	60.0%	26.7%	13.3%		15
先生がお使いのデバイス(PC,タブレット)がないまたは古い	40.0%	60.0%			5
あまり考えていなかった.	1				1
メモの書き込み	1				1
わからない	1				1
価格		1			1
教科書だけでなくPowerPointを使って講義をするので教室に持ち込む機材が増える			1		1
講義室が対応しているのかどうか。		1			1
使う予定はない			1		1
紙のうえにコーヒーマシンのシミやヨダレがついていること(自身の学習の記憶を残す)		1			1
書き込みするのが不便。目的以外の内容に注目してもらうことが	1				1
将来にわたって見れる保証がない。			1		1
総計	138	90	26	32	286

電子化を要望される教科書・参考書などのコンテンツがあれば、教えてください

その研究分: 電子化を要望される教科書・参考書などのコンテンツがあれば、教えてください

医・歯・薬・仮	オムニバス形式の授業のため分野教員との調整、また他の分野も含めてであれば学科の先生方と調整する必要があり、現時点では検討していない。
医・歯・薬・仮	主要教科書
人文・社会・	教科教育、教育方法・技術に関するもの全般
理・工・農	分子軌道法、密度汎関数法
理・工・農	値段的に不可能と思うが、R.C.HibbelerのEngineering Mechanics Statics & Dynamics 14th ed. など、辞書みたいな教科書(4万円ぐらいするのを裁断してPDF化してます)
理・工・農	担当している数学、気象学の教科書。数学はまだ板書で対応できるが、気象学は図表が多くなるのでほしい。「一般気象学 (小倉義光)」のような内容で、必要部分はWebへのリンクになっていて最新のデータや発表を参照できるものがほしい。自分で講義資料は作ってPDFで配布しているが、使用する著作権を考えると不安がある。
理・工・農	熱機関工学
理・工・農	獣医微生物学、獣医公衆衛生学
理・工・農	化学実験など、実験に関する動画

研究活動をすすめるにあたって現在お困りのことはありますか

医・歯・薬	マンパワー不足
医・歯・薬	実験室がない実験できない
医・歯・薬	無駄な書類が多すぎる
人文・社会	マンパワー不足
人文・社会	研究費の減少一特に基礎的研究費 授業、教育と管理運営の比重が増えることによるまとまった研究時間の確保の困難 サバティカルかサイドとしてあってもカリキュラムや他の先生の負担が増える中で利用できない
人文・社会	研究費の不足。図書館の貧弱さ。
人文・社会	予算と時間の確保。科研費申請などに予算が左右され、長期的な計画が難しい。申請内容に予算執行が制限されるため、派生的なテーマに柔軟には進めない。競争資金の申請作業自体を負担に感じる。大学全体での文科省の競争資金プログラムへの参加も会議事項が増える割に、大した予算の配分もなく、学生への還元がないので不毛に感じる。
人文・社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備や学内外の業務で時間がとられてしまい、研究に時間が割けない ・研究費が少ない ・狭い意味での「役に立つ」研究や「最先端の」研究、短期間で成果が出る研究ばかりに資金が投入される ・書類書きばかりさせられる ・政府から学術界、教育機関、研究機関への圧力が強まっていて、学問の自由が制限されている ・任期付きで雇用が不安定
人文・社会	教育や管理運営に時間が割かれて研究活動にかかる時間が細切れになる
人文・社会	雑用
人文・社会	授業のコマ数が多い。管理職にある教員のすべき仕事が降ってくる。
人文・社会	出張がしづらくなった
人文・社会	生協の営業時間が短い
人文・社会	生協の営業時間が短いので、無人店舗化でお願いしたい。
人文・社会	大学の設備が使いづらい。関係ない業務が多い。
理・工・農	研究に使用する機器が古く、更新する費用がないこと
理・工・農	研究費の獲得が大変。なぜ卒論のために研究費を教員が稼がなければ、教育できないのか理解できない。学内業務が多岐に渡り、研究時間の確保が大変。学力ではなく研究に取り組む姿勢の低下が昨今著しい。
理・工・農	事務や会議が多く、研究時間の確保が難しい。また学生に費やせる研究費が少なすぎる。学会発表もさせられない。
理・工・農	十分な研究費を獲得できる保証がまったくなく、多数の申請書を書く必要がある。大学改革などへの対応にかなりの時間がとられ、研究に充てられる時間が減っている。
理・工・農	会議ばかりで時間がない
理・工・農	学内業務に多く時間がとられる。
理・工・農	事務や会議が多く、研究時間の確保が難しい。また学生に費やせる研究費が少なすぎる。学会発表もさせられない。
理・工・農	150万円以上の高額修理について、大学本部に発注を依頼しているが、修理なので業者は概算見積書しか発行できないにも関わらず、発注の段階で最終(費用確定)見積書を要求し、2か月修理を発注できていない。これは大学本部事務による教員への研究活動妨害→パワハラである。
理・工・農	スタッフ不足
理・工・農	学生に参加させることが難しい
理・工・農	実験等で必要なものが生協で買えない
理・工・農	政府が教育を軽視している
理・工・農	電気代高騰。コロナ禍で入学した学生のコミュニケーション能力の低下。
理・工・農	任期の問題があるので、メンタルが不調。

行ラベル	医・歯・薬	人文・社会	理・工・農	総計
研究費が少ない	17.4%	10.9%	14.7%	13.9%
研究時間がない。	21.7%	17.4%	19.1%	19.0%
その他	13.0%	15.2%	10.3%	12.4%
(空白)	47.8%	50.0%	58.8%	54.0%
総計	23	46	68	137

行ラベル	医・歯・薬	人文・社会	理・工・農	総計
研究費が少ない	4	5	10	19
研究時間がない。	5	8	13	26
その他	3	7	7	17
(空白)	11	23	40	74
総計	23	46	68	137

昨年度 2022 研究費の利用割合

昨年度研究費利用割合		0%	10%	20%	30%	40%	60%	80%
自大学	物品	0.0%	3.6%	15.3%	10.9%	17.5%	24.8%	24.8%
	書籍	16.8%	29.2%	14.6%	6.6%	12.4%	3.6%	3.6%
	出張	11.7%	27.0%	23.4%	12.4%	7.3%	4.4%	1.5%
	人件費	38.0%	15.3%	5.1%	2.2%	2.2%	0.7%	0.0%
	その他	23.4%	24.1%	13.1%	2.9%	2.2%	0.7%	0.0%
全国	物品	1.9%	8.8%	15.5%	14.1%	16.9%	19.7%	17.6%
	書籍	16.3%	25.3%	14.7%	10.5%	8.9%	6.0%	5.3%
	出張	11.7%	22.9%	19.8%	13.4%	10.0%	5.5%	2.4%
	人件費	42.5%	14.1%	6.7%	3.0%	2.1%	0.9%	0.3%
	その他	23.5%	26.7%	12.0%	3.6%	2.1%	1.2%	0.9%

研究費の利用割合について、今年度割合を増やしたい項目はありますか

研究費で今年度割合を増やしたい項目	物品	書籍	出張	人件費	前年通りでよい
自大学	35.8%	10.2%	38.0%	12.4%	27.7%
全国	21.2%	11.7%	42.0%	12.6%	33.0%

行ラベル	23 医・歯・薬	46 人文・社会理	68 工・農	137 総計
(空白)	8.7%	2.2%	4.4%	4.4%
出張	17.4%	47.8%	38.2%	38.0%
物品	39.1%	21.7%	44.1%	35.8%
前年どおりでよい	30.4%	26.1%	27.9%	27.7%
人件費	13.0%	8.7%	14.7%	12.4%
書籍	4.3%	19.6%	5.9%	10.2%
↑前年どおりでよい			1.5%	0.7%
委託解析費など			1.5%	0.7%
今年度が予算が少ない(昨年度が多かった)			1.5%	0.7%
ので割合には意味がない				
総計	47	103	160	310

【調査概要】

- 左図は空白回答も含めての集計表。
- 前年どおりでよい 27.7% +0.7%以外の約6割が費用運用の変更に動いている。
出張費が 38.0%と高いのは、コロナ禍後で学会などの機会が増えていることを反映していると思われる。
物品費が 35.8%
人件費が 12.4%、書籍費が 10.2% と続いている。
- 理工系においては、物品費への
人文家においては、出張費、書籍費への支出を増やしている傾向がみられる。

研究費のうち、生協でよく購入されるものはどれですか

研究費:生協でよく購入する	物品	書籍	出張	生協はほとんど利用しない
自大学	64.2%	57.7%	1.5%	15.3%
全国	63.2%	46.5%	4.0%	16.0%

行ラベル	23 医・歯・薬・人文・社会理・工・農	46 総計	68 総計	137 総計
(空白)			1.5%	0.7%
物品	56.5%	65.2%	66.2%	64.2%
書籍	69.6%	76.1%	41.2%	57.7%
生協はほとんど利用しない	8.7%	10.9%	20.6%	15.3%
出張			2.9%	1.5%
総計	54	116	157	327

生協で購入する理由を教えてください

生協で購入する理由	納期	安価だから	必要なものがあるから	研究室から近いから	大学・研究箇所・教職員からの指定	発注しやすい	時間を選ばず発注できる	会計処理がスムーズ	アフターフォロー	担当者の来訪・人柄
自大学	9.5%	10.9%	16.8%	45.3%	5.8%	41.6%	6.6%	32.8%	5.1%	10.2%
全国	12.3%	12.6%	14.5%	34.2%	9.7%	49.8%	9.9%	38.3%	8.2%	8.6%

行ラベル	23 医・歯・薬・人文・社会理・工・農	46 総計	68 総計	137 総計
(空白)	4.3%	10.9%	11.8%	10.2%
研究室から近いから	60.9%	37.0%	45.6%	45.3%
発注しやすい	56.5%	50.0%	30.9%	41.6%
会計処理がスムーズ	26.1%	39.1%	30.9%	32.8%
必要なものがあるから	30.4%	6.5%	19.1%	16.8%
安価だから	17.4%	10.9%	8.8%	10.9%
担当者の来訪・人柄	8.7%	15.2%	7.4%	10.2%
納期	13.0%	8.7%	8.8%	9.5%
時間を選ばず発注できる	8.7%	6.5%	5.9%	6.6%
大学・研究箇所・教職員からの指定	17.4%	6.5%	1.5%	5.8%
アフターフォロー	4.3%	4.3%	5.9%	5.1%
研究室まで配達してくれるから		2.2%		0.7%
生協の存続		2.2%		0.7%
年度末調整に便利			1.5%	0.7%
配達してくれる			1.5%	0.7%
特になし			1.5%	0.7%
理由はない	4.3%			0.7%
注文から納品までが遅く、発注も面倒なため基本的に使わなし			1.5%	0.7%
総計	80	133	184	397

【調査概要】

- 左下図は空白回答も含めての集計表。
- 5割以上の利用されている物品、書籍に比べ、出張費関連の利用がきわめて少ない。生協側で提供できるサービス・商品が足りていないこと

生協以外を利用するメリットをお聞かせください

生協以外で購入する理由	納期	価格	品揃え・生協での取り扱いがない製品サービス	大学・研究箇所・教職員からの指定	発注しやすい	時間を選ばず利用できる	会計処理がスムーズ	アフターフォロー	担当者の来訪・人柄
自大学	28.5%	46.0%	61.3%	1.5%	40.1%	29.2%	12.4%	2.9%	8.0%
全国	25.8%	40.6%	57.0%	6.4%	32.1%	20.8%	12.4%	5.4%	5.7%

行ラベル	23 医・歯・薬・人文・社会	46 理・工・農	68 農	137 総計
品揃え・生協での取り扱いがない製品サービス	65.2%	54.3%	64.7%	61.3%
価格	56.5%	37.0%	48.5%	46.0%
発注しやすい	26.1%	34.8%	48.5%	40.1%
時間を選ばず利用できる	26.1%	30.4%	29.4%	29.2%
納期	21.7%	21.7%	35.3%	28.5%
会計処理がスムーズ	13.0%	4.3%	17.6%	12.4%
担当者の来訪・人柄	8.7%	4.3%	10.3%	8.0%
アフターフォロー			4.4%	2.2%
大学・研究箇所・教職員からの指定	4.3%		1.5%	1.5%
生協の接客がアフターフォローを含めイマイチだから			1.5%	0.7%
生協は洋書が高い			1.5%	0.7%
特になし			1.5%	0.7%
生協以外を利用するとは答えてはいない。 (でも書かないとアンケートを終わらせてもらえない)			1.5%	0.7%
総計	74	132	249	455